

例えばこんな無個性  
ヒーロー

ウラウララ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

短編基本一話完結。頭空っぽにして読んでください。

# 目次

魔法少女

1

ウニ頭

5



# 魔法少女

魔法少女と言うのを知っているだろうか？

彼女等はこの世界にいるのだ、救われぬ者に救いの手を。その理念で持つて行動を起こすヒーローより情熱的でヴィランよりもタチが悪い彼女等が。

「逃がさないんだによ」

その姿正に可憐な乙女が纏うに相応しいピンク色のヒラヒラの衣装をまとった乙女達。

「逃げる弔！奴らが奴らが来た！魔崩衝除（まほうしょうじょ）だ！！？先生が以前管理局の冥王に殺され、俺たちには後がないお前が生きていなければならぬんだ！」

凄まじい衝撃と共にアジトの壁は粉碎され、並み居る配下達は問答無用でその命を刈り取られていく。

「悪い子は月に変わってお仕置きによー！」

服の下から服を押し上げる……ギリシヤ神殿の柱に引けをとらないシックスパック。

その大きな胸にはきつと男の子の夢が詰まっているのだろう可愛らしい鈴付きリボ

ンがチャームな……乳首すら鍛え上げられていそうな大胸筋。

そのスカートの下は何人も覗くことかなわず、夢破れたお兄さん達はきつとその思い胸に成長したのだろう……その下から覗く美しく切の入った大腿四頭筋

その腕は多くの者を救い、ある時は涙を流す者達を抱きしめて来たに違い……巖のように鍛え上げられ無個性でありながら壁を殴ってなお傷一つつかない拳。

その掌に握りしめるは、魔法少女を魔法少女足らしめる魔法のステッキ「いやー!! ? 凜さんでも土郎さんでもじじいでも良いですから助けてください! ルビーが死んじゃいますよー! ?」——その乙女の親指よりも頼りないステッキを手に並み居るヴィランに華麗な魔法を放つ乙女達。

「ダイバイン・バスター」「ガアアアアアああああ!! ?」

呪文により発動したのは、その鍛え上げられた呼吸による魔法の衝撃。

決して肺活量にモノをいわせた力技では断じてない。きつと、たぶん、おそらく、めいびー。

緑谷出久は無個性である。4歳の時個性診断で無個性を言い渡された彼は、途方にくれるなか爆豪にイジメられる日々を過ごしていた。

どれだけ助けを望んでもヒーローは来ない、大人も見て見ぬ振り、母もいつだって僕を見て悲しい顔をする。

僕だって個性があればきつとヒーローになれるんだ。

「マジカル・トランス!!?!」

そんな時彼女達に出会った。

イジメを放置した学校に殴り込みに来た乙女達。沢山のイジメっ子をその拳で教育して先生もその蹴りで倒していく。

そして最後にはイジメの資料全てを遅れて来た警察とマスコミに渡して颯爽と去っていく姿。

ヒーローオタクとして初めて見た乙女達に心奪われた出久は数年後。

「マジカル・フォーミュラ!!？」

その鍛え上げられた肉体で共に無個性な魔法少女達と無認可ヒーローの日々を送っていた。



## ウニ頭

その男はヒーローに憧れていた。

昔大陸で光る子供が生まれてから幾年、今世の中は個性が溢れていて多くの者がヒーローに憧れていた。

しかし、男は無個性だった。

だが諦めきれなかった、彼は何故か持っていた記憶の中のヒーロー達を目指して修行を始めた。

来る日も来る日も、腕立て・スクワット・腹筋・ランニング・感謝の正拳突き。

誰もが憧れた○○波の練習も欠かさず行った。吸血鬼を倒す為の呼吸法 e t c

いつしか髪が抜け始め、それと同時に身体に力がみなぎってきた。

これでヒーローになれる！

しかし、無個性ではヒーロー認定許可証。個性の使用許可証が降りずヒーローにはなれなかった。

それでも彼は諦めきれなかった。だから彼はいつもこういう。

緑谷出久はその日運命に出会った。

目の前のヴィラン深海王は、数多のヒーローを倒し人々を絶望に陥れた。それなのにそいつはたった一発のパンチで死んだ。

その後ヴィランを倒した彼はあえて悪役を演じヒーロー達の心も守った。

始めて見たヒーロー、ヒーローオタクの出久も知らない彼を雨の中追いかける。

その身に黄色いヒーロースーツ、大きな背中を隠す赤色のマント、そして何よりも目立つこの天気の中なお輝く頭。

「あの！貴方は一体！」

「俺か？俺は趣味でヒーローをやっている者だ」

「貴方の個性は一体」

「個性？んなもんねえ俺は無個性だ」

「僕も無個性なんです、それでもヒーローになれますか？」

「お前次第だ」

「…僕を弟子にしてください!!?」

「やだよめんどくせえ」

「え…」

断られるとは思っていなかった出久だが、彼は諦めなかった。そのまま彼の家まで付いて行きその日以降朝早くから日が沈むまで彼の隣で一緒に修行の日々。彼も側にいるだけなら気にしない性格でお互い修行の日々を過ごした。

出久は鍛えた、筋肉が壊れる音を聞き、骨の悲鳴を無視して。

いつしか、彼の髪は刃物では切れなくなり常に棘のように尖っている。

「先生！奴らが奴らが来た。ヒーローモドキのハゲマントとウニ頭が」

「直ぐに逃げるんだ!!? 私が時間を稼ぐ」

オールマイトと互角に戦ったAFOが全力で挑む、幾多もの個性を使いハゲマントと戦う中ヴィラン連合はウニ頭の襲撃により幹部を除きボコボコにされていた。

「さて、出久警察とヒーローが来る前に金目の物を集めて逃げるぞ」

「はい、師匠！」

二人はヴィラン連合内の金目になりそうなもの、身に付けている衣服も含めて奪いその場を後にする。

—————

「また逃したか、ヴィラン狩りハゲマント」

オールマイトは悔しきから歯噛みする。

ヴィラン狩り多くのヴィランを倒し金目の物を奪い、犯罪者を倒し金目の物を奪う。

その上で盗まれた物はキチンと民間人に返すことからヒーローよりも民間人には人氣があつたりするヴィラン。

やっていることは社会のルールに従えば犯罪だが多くのヴィランを倒し、また災害救

助にも係り人々を救っていることからヒーローの中でも判断に迷う存在だ。

必ず捕まえる、その上で彼等がヒーローに相応しいならキッチンと手順を踏んでヒーローになつてもらおう。

オールマイトはそう心に誓うが、そもそも彼等は無個性だからヒーローになれないことを彼はまだ知らない。